

安心して暮らせる力強いまちづくり

福知山市議会議員

# 片山まさき

議会報告 No.6 号

(令和7年1月1日 発行)



明けましておめでとうございます。  
輝かしい新春を健やかに迎えのことに、心よりお喜び申し上げます。  
昨年は、皆様方のひとかたならぬお力添えのもと、就任2年目の議員活動を無事務めることができました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。  
さて、昨年を振り返りますと、年明け早々に能登半島地震が発生し、また9月には能登半島豪雨災害が発生いたしました。  
現在も懸命の復旧・復興作業が進められておりますが、改めてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。  
幸い当地域におきましては、大きな災害に見舞われることもなく、比較的平穏な年ではありましたが、地球温暖化に伴う猛暑による体調不良や、農作物への被害といった地球規模での環境変化への備えの必要性を痛感させられた一年でありました。  
去る12月2日に開会されました市議会12月定例会におきましては、来年4月に開催される「大阪・関西万博関連経費」、昨年8月に本市で確認された特定外来生物「クビアカツヤカミキリの駆除経費」、「子宮頸がん予防ワクチン及び帯状疱疹ワクチンの追加接種経費」、「介護人材確保対策経費の増額」、「地方債繰上償還金」、「補助金等償還金」の総額693,428千円の補正予算、並びに追加提案の補正予算(総額1,133,844千円)等が上程され、慎重審議のうえ可決されました。  
また、本定例会では4項目について一般質問をおこない、理事者側に答弁を求めながら議論を深めてまいりましたので、その概要について裏面のとおりにご報告させていただきます。

## 新文化ホール整備に係る対応経過について

多くの市民の皆さんから「新文化ホール整備に係る対応状況が見えない。」という意見を数多くお聞きしますので、改めて対応経過についてご報告させていただきます。

年月日	対応経過
令和4年7月～	市において「新文化ホール整備基本構想・基本計画策定委員会」が延べ10回開催され、令和5年7月に「基本計画」が策定される。
令和5年9月24日	9月定例会に1億4,414万円の補正予算が上程されるが、市民への丁寧な説明不足や席数・建設場所等の課題があることから、市議会としては慎重審議のうえ5つの「付帯決議」を付けたうえで補正予算を可決する。
令和6年3月12日	市民から市長に「新文化ホール見直しの賛否を問う住民投票条例の制定を求める署名(8,296筆)」が提出される。
令和6年3月26日	市長が令和5年7月に策定した「新文化ホール整備基本計画」の再検討を表明。
令和6年3月27日	3月定例会にて「住民投票を求める請願」については「不採択」、「整備事業を推進する請願」については「採択」と決する。
令和6年5月10日	臨時議会にて「住民投票条例の制定を求める議案」を否決する。
令和6年9月～	市において「新文化ホール整備基本計画再検討委員会」と「新文化ホールについて考える市民懇談会」を開催しながら再検討作業を開始。

※以上が、新文化ホール整備に係る市及び市議会の対応経過の概要ですが、引き続き市の再検討の進捗状況を注視し、最も相応しい整備のあり方について議論を深めてまいります。

## 【一般質問】

### 1. 福知山市佐藤太清賞公募美術展の展望について

**片山** 今年度、第24回の開催となる「佐藤太清賞公募美術展」であるが、年ごとに「出展数」「巡回展の総入場者数」が減少の一途をたどっている。また、公募美術展に充当する「佐藤太清賞基金」についても令和4年度に枯渇し、このままでは日本画壇の重鎮として後進の育成に心血を注がれてこられた佐藤太清画伯の功績を讃え、その志を受け継ぐことができないのではないかと危惧している。

来年度、第25回という節目の開催となる公募美術展を迎えるにあたり、今後の「公募美術展のあり方」についてしっかりと議論を深め、いつたん立ち止まることも視野に入れながら検討を進めるべきと考えるが見解をお伺いする。

**答弁** 令和7年度に第25回の節目の「公募美術展」を迎えるにあたり、開催に際して基金の他に多額の市費も必要となってくることから、今後は基金の活用方法も含め、市としてどのような文化振興を進めていくか、広く検討を行う必要があると考えている。

**片山** 「福知山市佐藤太清記念美術館」については平成17年に「福知山市立美術館」から名称を改め、今日まで文化芸術の進展に大きな役割を果たしてきたところであるが、今後は佐藤太清画伯の作品の常設展示コーナーは継続しながら、幅広い芸術作品の展示にも軸足を置き、美術館の名称変更も視野に入れながら事業展開を進める必要があると考えるが、美術館の今後の展望をお伺いする。

**答弁** 美術館の設置目的に沿って佐藤太清画伯の功績を引き続き顕彰するとともに、市民文化の発展に寄与するため、常設展示は継続しながら新たな企画展や多様な芸術文化のワークショップなど、視野を広げて検討してまいりたい。

### 2. 外郭団体への市の関与のあり方

**片山** 令和4年1月に策定された「福知山市外郭団体への関与に関する指針」に基づき「大江観光株式会社」の事業を継承するため、令和5年6月1日に設立された「一般社団法人福知山地域振興社」であるが、市は地方自治法等の関係系法令の規定に反し、2つの委託業務を一般競争入札や指名競争入札等に付さず、恣意的な一者随意契約により「一般社団法人福知山地域振興社」に発注しており、法令順守に反する市の進め方には懐疑的にならざるを得ない。関係法令に反し一者随意契約に至った経緯を説明願いたい。

**答弁** 業務発注については、関係法令に基づき適正に実施していると考えている。

**片山** 地方自治法等の関係法令に基づき一者随意契約できるのは「法令等で契約の相手方が特定されている場合」と、「他の者が有しない専門的知識、技術等を必要とし、特定の業者しか契約履行ができない場合」に限定されていることから、一般社団法人福知山地域振興社に一者随意契約したことは違法と考える。今後しっかりと検証いただきその結果を報告されたい。

### 3. 効率的かつ総合的な農業経営について

**片山** 農業経営基盤強化促進法の改正を受け、策定された「地域計画」に基づき中六人部地区において進めようとしてされている「地域まるっと中間

管理方式」であるが、担い手同士が共存できることや担い手や自作希望農家に対して特定農作業受委託を行う方式がとりやすいなどメリットもたくさんあるが、地域で一般社団法人を設立する必要があり、設立に係る資金面や専門人材の確保等、大きな壁があるように感じる。10年先、いや5年先の農業のあるべき姿を見据えて、行政としても積極的な支援が必要であると考えているが、中六人部地域出身の実業家で東京都において活躍されている方から、中六人部地域の発展と福知山市の活性化のためにご寄付をいただき、積み立てを行っている「ふるさと納税基金」を充当して「地域まるっと中間管理方式」のスタートアップに伴う一般社団法人の立ち上げ支援策を講じる考えはないか。

**答弁** 寄附者のご意向として示されている寄付金の使途を踏まえ「ふるさと納税制度」を活用した支援策について検討してまいりたい。

**片山** 令和6年3月市議会定例会における一般質問に対して「丹波栗の支援について従来の支援方法にとらわれず新たな支援策を検討してまいりたい」との市長答弁をお聞きしたが「地域計画」の中で栗・果樹園等を計画されている農用地保全に対しても積極的な支援策を講じる必要があると考えるが見解をお伺いする。

**答弁** 丹波栗の生産者に対する支援については、更なる品質向上の強化と生産拡大により、栗農家の所得増加に繋げていけるよう支援制度の創設について検討を進めているところであり、「地域計画」の実現に向けた取り組みに対しても、相談や情報提供、支援制度の周知を行ってまいりたいと考えている。

### 4. 新文化ホール整備による福知山駅周辺地区の更なる賑わい創出について

**片山** 福知山駅周辺整備事業に合わせ駅北大規模街区においてホームセンターのチェーン店舗を展開する事業者と事業用定期借地契約を締結し、賑わい創出の事業展開を進めてこられたところであるが、5年後の令和11年9月末をもって20年間の契約期間が満了するこの駅北大規模街区をどのように活用するのか。

**答弁** 引き続き賑わい創出の拠点となるよう土地利用を考えてまいりたい。

**片山** 新文化ホール整備の再検討に係る様々な会議の中で「駅周辺地区の便利な場所に新文化ホールを整備すべきである」という数多くの意見を聞くが、市の財政負担を軽減するためにも、ホームセンターのチェーン店舗を展開する事業者が事業用定期借地契約により貸し付けている駅直近の約1万5,000平方メートルの市有地等を活用し、民間事業者からの事業提案に基づく官民連携手法の新文化ホール整備を進める考えはないか。

**答弁** 現在、再検討委員会や市民懇談会において市民の皆様から意見をいただいているところであり、候補地や整備手法などについて市としての見解を申し上げられるものではない。

発行元: 片山まさき事務所

620-0831 福知山市字岩崎 159 番地の 3

TEL/FAX 0773-27-1265

E-mail markikun.k@gmail.com